



REAR [背面]

FRONT [前面]



【カテドラルガンダム】

製作文／ラルさん

聖堂の意味を持つ言葉を冠する「カテドラルガンダム」。目撃情報も少なく謎の多いこのガンプラを、意外とこちらも謎の多いラルさんにお願いした。青い巨星を作れる白と金のガンダム、秘められた謎は明かされるのか。



Vol.02

神聖の金

NK-13
CATHEDRAL
GUNDAM
1/144 scale plastic kit "High Grade(+scratch)"
modeled by Mr.RAL

全ての装備を組み合わせて完成するクレッセントムーンボウ。それにしてもラルさんは何故、カテドラルの武器名まで知っているのか……編集長に聞いてみたところ「ラルさんだから」の理由で一蹴された。確かに。



NK-13 CATHEDRAL GUNDAM

製作・文／ラルさん

バトル選手権を思い出す方もおられるのではないか？そう、天山学園の「ナイナイアルガンダム」である。装備、細部形状、そしてカラーリングこそ違えど、それらを補てり余るその共通点。実はこの「ナイナイセブン」が感動的で、ハイアルの姿を想起する。読者諸君より、「足元にその感情を抱いていた」と私が思い出したガンダム……それがこの「ハイアルガンダム」なのだ。

今回はホビーホビー編集部の依頼で、私の記憶を元に再現製作を行った。何故私が「ナイナイアル」に似たこのガンダムを知るのか、それは伏せさせてほしい——ただしだけかなのは「カーナドラングンダム」の「カンパン」バトルを私はこの目に見出した。この機体はライフルやシールド、ソウルモードメインストリーム

を突き詰めていたので、人間の動きを縮尺まで表現する試みも行われていたようだ。見振りやすいが、操縦機の特性や技量がファイターによって機体性能として投影されてしまうのも、それに最も弱い部分だ。なぜなら、戦闘では、敵に近づくほど強にもなり得ると言つてあり……ガントリーの性能をお陰でだけは勝てない。唯しつけめがんばかりだと諱せざつもねえ。

禍々しいティナイアルは対照的なカラーリング、特に神々しさを強調する金色の塗装再現は困難を極めた。青みがかった赤、赤みがかった金と、まさに色味には迷はあるのだが、今はそれを意識して、かつマタリック特有のさうした粒感をなるべく抑えた調色を行っている。

ティナイアルガンダムの祖となつたカナードルガンダムを誰が作ったのかは分からぬ。しかし完成したガンダムは手掛けたビルダーの意表がちで、あの時の戦いでもドラマが示した王者の風格、その源となる完成度の高さは、ガンダムパトルを愛する読者諸君がよく知る人間……いや、その「称号」を想起せざるを得ないものだたと付記しなお。



るるさん……近況、メイジン杯では少々大入げの無いところを見せてしましたが、久々ぶりに本気のガンブーラバトルを楽しませて頂きました。私のドム35、いかがでしたか？ グッとは違いますが、違うなりの魅力がどちらにもあるのです。

